

檜の会

平成十八年
文月・葉月
第十八号

NPO 法人「檜の会」事務局
京・東山やすい松小路
TEL/FAX 〇七五・五二五・〇八〇三

皆様のご意見、ご投稿など
お待ちしております。
E-mail BBS03240@iitv.com

企画・編集/檜の会会報編集室
発行日/隔月二十五日
<http://www.iitv.ne.jp/~hinoki/>

八坂神社と祇園祭

八坂神社宮司 森 壽雄

祇園祭の由来

祇園祭は貞観十一年（八六九）京の都に疫病が流行したとき、勅を奉じて神泉苑に六十六本の鉾を立てて祇園の神を迎えて祭り、洛中の男児が祇園社の神輿を神泉苑に送って災厄の除去を祈ったのに由来し、平安時代の中頃から規模も大きくなり、空車、田楽、猿楽等も加わって盛んな賑わいを見せてきました。

室町時代になると町々の特色ある山鉾が作られて、応仁の乱前、既に六月七日に三十一基、十四日に二十七基山鉾のあったことが『祇園社記』に記されています。応仁の乱（一四六七）で都は灰燼に帰し、祇園祭も中絶しましたが、明応九年（一五〇〇）には復活、その時より山鉾巡行の順位を決めるくじ取式が侍所で行われることになりました。以後、町衆の努力により山鉾の装飾にも贅を尽くすようになり、近世には度々の火災で多数の山鉾が焼失しましたが、その都度、町衆の心意気によって再興し、今日に至っています。

祇園祭の特質

祇園祭は千余年の伝統を有する八坂神社の祭礼です。七月一日の吉符入りから始まって、三十一日の疫神社夏越祓にまで各種神事・行事が繰り広げられる中で、山鉾巡行はそのハイライトで、神輿の渡御、その他各種行事もあつて、一ヶ月に及ぶ壮大な祭礼です。

また、山鉾には、神功皇后・聖徳太子・役行者・天神様、観音様等、種々の趣向がこらされた飾り付けがなされますのも、神話や中国の故事に基づいた作り物や、儒教・仏教・道教の教えさえ取り入れられ、ホメロスの叙事詩イリアスや旧約聖書のアブラハムの子イサクの嫁選びの図に取材するタペストリー類までが用いられています。まさにあらゆる神々が集まって祇園の神をたた

える形となっています。

山鉾は本来、疫病等の災疫をもたらす疫神（御霊）を退散させるためでしたが、神輿に祇園社の神を迎えるに先立って、都大路の清祓をしたとも申せます。

当初六十六本の鉾を立てたのは、全国六十六か国に因むもので、それは国々の国魂神が集まって祇園神を祭る形を取ったものとみられます。初期の祇園祭は六月七日（陰暦）の神輿迎えと十四日の神送りがこの行事の眼目でありました。その名残をとどめているのが七月十日と二十八日の神輿洗式でありましょう

今日、山鉾をもって飾るのは、各町々ですが、遠い異境の神までが集まって祇園の神を迎えてこれを祭る形で、神人和楽の姿を現しているものとみてよいでしょう。あらゆるものを包容して、それを一つの祭りの中に調和させていくところに祇園祭の特質があると申せます。

「お知らせ」【お問い合わせは、当会事務局まで】

檜の会主催

煎茶・玉露の頂き方及び作法

時・所 七月十二日（水）十三時～十六時（安井金比羅会館）
講師 宝山流家元 新井奈津子師（当会専務理事）
受講料 五〇〇円（会員無料）

「郡上おどり」参加と研修

時・所 八月二日（水）～三日（木）の一泊二日（所々後日連絡）
申込 FAX又はTEL 〇七五・五二五・〇八〇三（〆切七月二十日）
参加費 一六、〇〇〇円（一泊二食分）

豆知識

郡上八幡の「宗祇水」は、全国名水百選の筆頭である。この名水は、室町時代緒国行脚の連歌師宗祇法師が郡上八幡社別当の岩本院に客人として迎えられ、里人から偉大な客人が住んだ屋敷として尊敬をもって「宗祇屋敷」と呼ばれた聖地の北側に存する。この飯尾宗祇法師は、滋賀県東近江市伊庭の出生である。



いま思い返せば、あれはバブル期の頃だったと思う。テレビの画像から京の町屋がブルドーザーで取り壊されていく。タンスも置かれたままだ。衝撃的な場面だった。建物はともあれ、タンスまで。思わず「何でえ、タンスの中の『きものは?』」瞬時に頭の中をいろいろな思いが駆け巡る。無残にも歴史あるものが消えゆく。この頃、京都の町中で多くの家が潰され、マンションやビルとなり長い間空き地となっていた所には草が生えゴミが散乱している光景をよく見かけた。長い時を刻んできたものがそこかしこで消え行く様に胸が痛んだ。町並みや家は残念ではあるが個人ではどうにもならない。せめてタンスの中の「きもの」だけでも留め置きたい!日本の民族衣装であり、人々を装ってきた「衣文化の証、服飾史の証人として一枚でも多く残せれば、残さなくては・・・」何故かそんな思いにかられた。

『きもの』は好きではあったが、それまでそれ程強く執着はしていなかった。又この頃きものに対して十分な知識があった訳でもなかった。ただ、環境的には母が和裁をし、教える人だったのできものに囲まれて成長してきた。今でも裁ち板の上で反物にハサミを入れる時のザクツ、ザクツとした音、コテをあてた時の匂い、厚紙で袖の丸みを作りアグラを組み足の指に布を挟んでひたすら針を運ぶ母の姿が目につく。又、京都に嫁いで来てからは、各種団体が開催する染織セミナーなどは興味深く参加していた。時代きものを選ぶ時、まだまだ知識よりも「これが好き!」という私の勝手基準でチョイスしていた。『きもの』も数が少ないうちが一点この色がきれいとか柄がいいとかしか見えてこなかったものが、かなり数が増えてくると色目や柄ゆき、仕立ての工夫などの傾向に時代の特徴があり、いつの頃のものか臆げに見えてくる。又、多くの品に触れ、布の手ざわり感で景色の違いがわかってきた。明治・大正・昭和の時代を経てきたきものに、これ程の魅力を感じるのには、時を惜しまず汗を惜しまず今ではみられなくなってしまうた染・織・紉・綴・箔などの当時の職人の思いの入れ込み・息づかい高度な技術が今なお心地良い衝撃で伝わってくる。この様な「心地良い衝撃」のある品に出会えた時改めて日本人独自の意匠的美学を教えられる。今まで何回かコレクション展を開いた。

若い世代の方とそんな話をする機会があった。彼は、「ぜひ、きものについてレクチャーして下さい。」との声をかけて頂いた。多少の知識はあっても人様に伝える時、間違っていないとはいけない!そんな思いからこのひと言をキッカケに改めてきちつと勉強したいと思った。もう十数年前から「いつかこの先生のもとで『きもの』について学びたい」と思っていた事を夫に話しました。「そんな前から行きたくったのなら行ったらは。」と言ってくれた。早速東京の本校に資料請求をした。

調べていくうちに名古屋校がある事がわかり年明け早々から名古屋行きがはじまり、半年が過ぎた。先生の授業は長い間の私の思いを満たして下さる内容で毎回とても充実した学習をさせて頂いている。日本の歴史と併せて『きもの』の歴史、染織の産地、技法、繊維の組織、きものコーディネート、着こなし、マナー、きもの地別の旬など多岐にわたる。毎回学習の資料(プリント)に合せて私達がより理解しやすい様に御自身がお持ちのきものや帯。人間国宝の作家の作品や重要無形文化財に指定されたお品。時にはきものに関する日本画などをお持ち下さいます。受講されている皆様も毎回多くの方がきもの姿でのご出席。これもまたお互いにいい勉強となります。益々きものとりこになってしまっています。又、先生の温かいお人柄、豊富な知識と先生の魅力にどんどん引きこまれています。私のはじめて受けた講義の折、先生は「衣は人なり。人格、人柄が出ます。」と話された。常々「檜の会」できもの姿の方々を拝見させて頂く時、私もその様に思っておりしたので、「同感、同感。」とおもわず心の中で呟いてしまった。

『きもの』は、精神世界に大きな影響を与えます。高温多湿である日本の気候風土に叶っています。精神世界に裏打ちされた『きもの』は、私達日本人を美しく装ってくれます。男の人は、ずつつと男前が上がります。女の人は、超ベッピンに。若い人のお声かけに年を重ねてきた者として、『きもの』という歴史ある「日本の民族衣装」を通して共に学びながら少しでもお役に立てたらと思つ今日この頃です。

と伝統文化、文字、礼儀、意匠、美学、日本人としての誇り民族衣装として国際交流などと、広い世界と密接な関りがあります。

「お知ろせ」【お問い合わせは、当会事務所まで】

檜の会主催

芸術総合展『伝統文化の精華』

美術場 九月九日(土)〜十日(日) 十時〜十七時
高台寺円徳院 染色 春日井路子(三三三) 金箔 近藤正明(三三三)
能面 長沢宗春(三三三) 乾漆 山田豊子(三三三)
芸能 伝統結び 小暮幹雄・川島美園・高取美貴弥(三三三)
芸能 一弦琴 大西一叡 白拍子舞 井上由理子
講演 佐川美術館常務理事 河田 貞先生(当会顧問)

関連催事

日韓結び文化京都展

主催 日本結び文化学会
期日 七月十三日(木)〜十七日(月) 十時〜十八時
会場 京都文化博物館

入場無料

